

1. 日時：2011 年 9 月 14 日（水） 14:00～17:00

2. 場所：大阪工業大学／大阪センター304 号室

3. 出席者：14 名（敬称略，下線は欠席者）

中塚侑，宮川豊章，西山峰広，佐藤裕一，中村健一，阿波野昌幸，市岡有香子，市来隆志，井上晋，大下栄吉，寒川勝彦，岸本一蔵，久保善司，坂田博史，島田安章，白濱昭二，杉田篤彦，田中秀人，谷昌典，寺口秀明，中村佳史，服部篤史，濱本哲嗣，日高重徳，丸山一平，三方康弘，吉田正友

学生オブザーバー：林成俊，李在満

講師：川上裕佳氏（オリンタル白石）

4. 配布資料：

2-1：委員名簿

2-2：アンボンド RC 部材のひび割れ分散性に対する異形鉄筋付加の効果（川上氏）

2-3：鉄筋コンクリート柱梁接合部を有する不静定ラーメン架構の耐火実験（林委員）

5. 議事内容：

(1) 「アンボンド RC 部材のひび割れ分散性に対する異形鉄筋付加の効果」に関して川上裕佳氏（オリンタル白石）より説明，ならびに質疑応答があった（資料 2-2）。

（質疑応答）

- ・ 配筋・定着・付着を説明してほしい（中塚）
- ・ アンボンド区間は等曲げ区間より短い？（西山）
→いいえ。等曲げ区間（ $3d=1800$ ）に対して、試験体 No1, 2, 3 は両側 $1d$ ずつ長くした（ $5d=3000$ ）。また、No.1-0, 1-1 については等曲げ区間より若干長い 2000 とした。
- ・ 周長に基づくデータ整理は？（西山）
→していない。鉄筋比で整理した。
- ・ D10, D16 を使用した理由は？（西山）
→あまり根拠はない。
- ・ なぜ PC で実験しないか？（白濱）
→中立軸の変動を少なくするとともに、応力ジャンピングを明瞭に発生させたかった。
- ・ 測定検長は？（寺口）
→インバーより線の滑車間距離。
- ・ 解析で初期ひび割れはどのように入るのか？（寺口）
→いろいろ工夫したが，切欠きを入れないと 1 本にならない。

(2) 「鉄筋コンクリート柱梁接合部を有する不静定ラーメン架構の耐火実験」に関して林成俊委員より説明，ならびに質疑応答があった（資料 2-3）。

（質疑応答）

- ・ 拘束力は？（吉田）

→火災時も一定。

- たわみ速度は？（吉田）
→ISO 限界たわみ速度に達した後，さらに押した。
- 部材だけのデータは？（吉田）
→ない。
- 熱が集中したら？（中塚）
→局所化するの火災初期の 20 分程度のみなので，均等化した熱源で考える。
- 鉄筋の熱の上昇スピードが速いようだが？（島田）
→側面からも熱を加えている。
- 曲げ算定法は？（中塚）
→材料強度～温度関係を剛塑性仮定。ひずみ適合は不要。
- せん断ひび割れは軸伸びから考えて妥当か？予測できるか？（中塚）
→骨組みの変形状態から考えて妥当だと思う。現在計算中。
- 柱の軸力は？（吉田）
→ゼロ。軸力なしのほうが危険側と思われたため。

(3) 次回の開催日時について

今回は，2011 年 12 月 15 日 14:30 より大阪工業大学・大阪センターにて開催する。

以上 （記録：佐藤）